～ *Making Estimations* ～

建設BOX製品ガイド

ハノ・テック株式会社

http://www.hanotech.co.jp/

Ver.13 2009-12-01

目　次

基本システム

１．開発コンセプト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．システム関連図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
３．見積作成手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
４．LAN環境での使用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
５．見積階層構造 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
６．多彩なシミュレーション機能 ・・・・・・・・・・・・ 6
<6-1> 見積単価・見積数量の率検討 ・・・・・・・・・・ 7
<6-2> 提出金額の頭合わせ ・・・・・・・・・・・・・・ 8
<6-3> 見積原価の逆シミュレーション機能 ・・・・・・・ 9
７．単価データの自動更新 ・・・・・・・・・・・・・・・ 10
８．多彩な入力方法
<8-1> マスタからの一括入力 ・・・・・・・・・・・・・ 11
<8-2> 材料一覧表入力 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
<8-3> コード番号による入力 ・・・・・・・・・・・・・ 13
<8-4> ダイレクト入力 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
<8-5> エクセルからの貼り付け機能 ・・・・・・・・・・ 14
９．自由自在な編集機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
１０．ユーザー特有の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・ 16
１１．エクセルからのマスタデータ入出力機能 ・・・・・・ 19
１２．見積原価比較機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

オプション機能

１．見積情報拡張機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
２．エクセル自動変換機能 ・・・・・・・・・・・・・・・ 22
３．CI-NET入出力機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

建設BOXは、効率アップだけでなく、更なる付加価値を求めて開発されています。

★　簡単操作で効率アップ	★　自由レイアウトが可能な見積書
★　見積原価と利益金額の把握	★　豊富な集計機能と帳票群
★　個人差をなくし、積算業務の標準化を図る	★　充実したシミュレーション機能で利益の確保
★　容易なマスタメンテナンス	★　ＬＡＮ対応で業務の分担作業を実現

◇　受注に結びつく見積書作成

◎　個性と説得力のある見積書

受注に結びつけるために、提出する見積書は各社の個性を生かし、説得力のある見積書とするために、見積書フォームを自由にレイアウトできるようにしました。

◎　交渉に即答するために

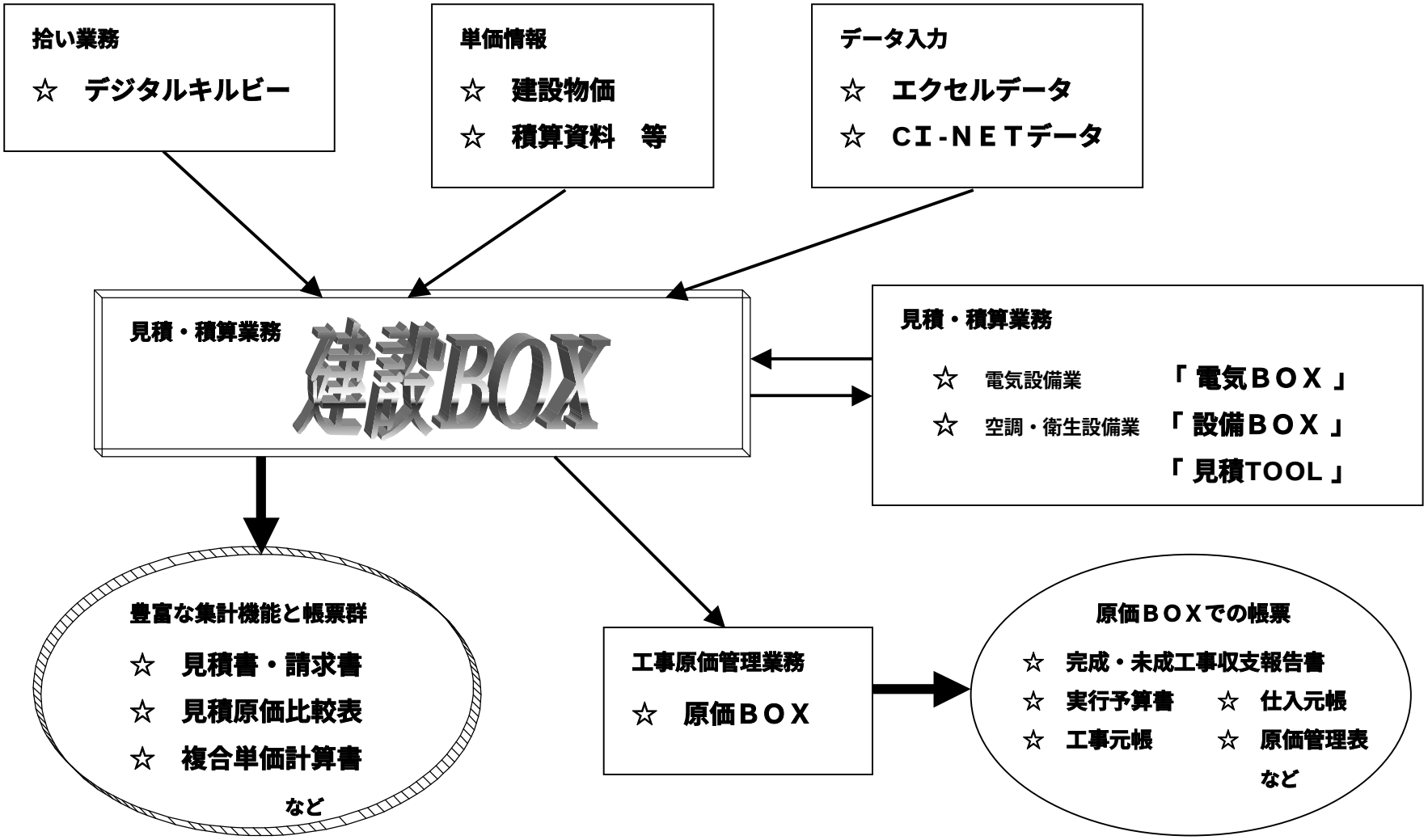
見積書提出後には、必ずといっていいほど交渉があるはずです。その交渉の場で即答するために必要となる様々な資料・帳票類を充実させました。

◇　「建設業専用」でありながら「専用ソフト」を意識させない

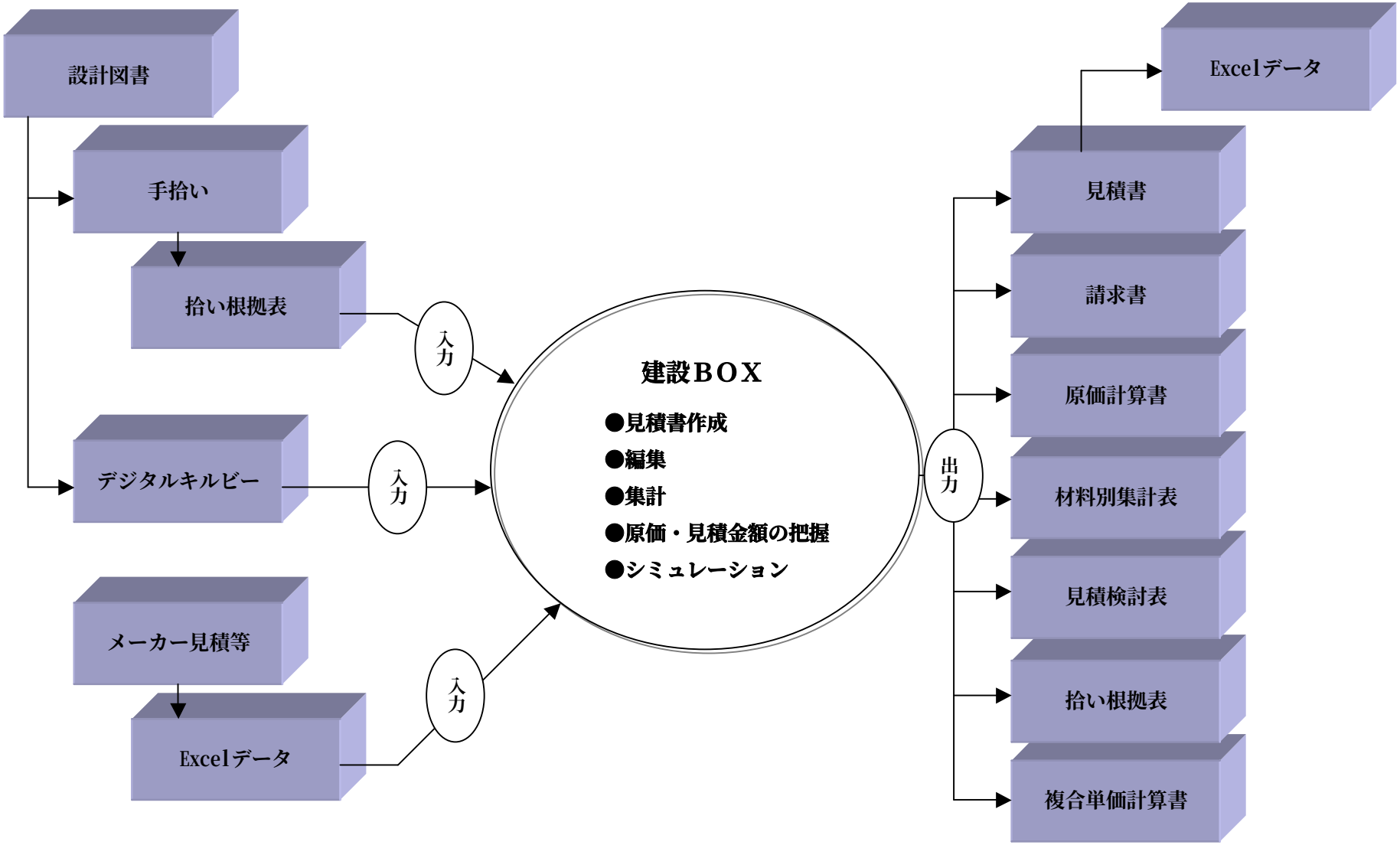
「専用ソフト」と謳われているものの多くは、その業種・業務に特化することばかりにコンセプトの主眼がいきがちで、いざ導入してみると規定の操作手順に従わなければならなかったり、思い通りの見積書に仕上げられなかったりという問題が見られます。

建設ＢＯＸは、手書き感覚で思い通りの見積書を作ることができ、更にその上で、「建設業特有の機能」を使用できるように開発しています。

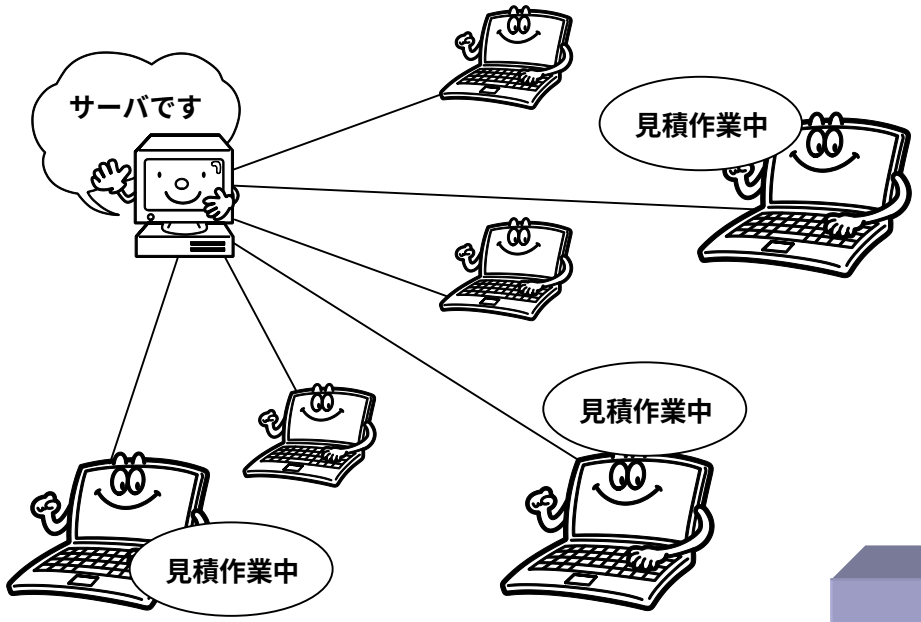
システム関連図


拾い業務
☆ デジタルキルビー
単価情報
☆ 建設物価
☆ 積算資料 等
データ入力
☆ エクセルデータ
☆ CI-NETデータ
見積・積算業務
建設BOX
見積・積算業務
☆ 電気設備業
☆ 空調・衛生設備業
「電気BOX」
「設備BOX」
「見積TOOL」
豊富な集計機能と帳票群
☆ 見積書・請求書
☆ 見積原価比較表
☆ 複合単価計算書
など
工事原価管理業務
☆ 原価BOX
原価BOXでの帳票
☆ 完成・未成工事収支報告書
☆ 実行予算書
☆ 工事元帳
☆ 仕入元帳
☆ 原価管理表
など

見積作成手順


設計図書
手拾い
拾い根拠表
デジタルキルビー
メーカー見積等
Excelデータ
入力
入力
入力
建設BOX
●見積書作成
●編集
●集計
●原価・見積金額の把握
●シミュレーション
出力
Excelデータ
見積書
請求書
原価計算書
材料別集計表
見積検討表
拾い根拠表
複合単価計算書

LANで接続されたすべてのコンピュータで使用可能です。



上記イラストの例では、LANで接続された6台のクライアントすべてで見積作業をすることができます。

ご契約時に、同時起動システム数を指定していただきます（上記のイラストでは3本の同時使用が可能です）。

LANで接続されたすべてのパソコンで使用することができます。（同時使用できる本数の上限をご契約いただきます。）

この使用方法の利点としては…

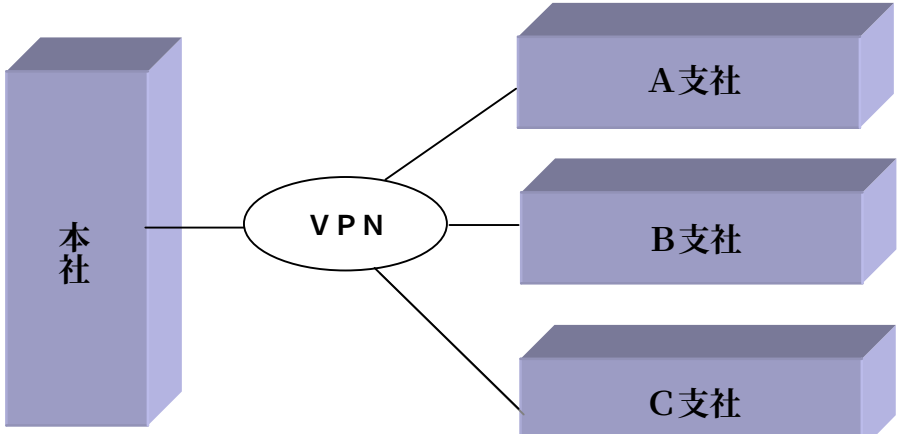
①社内のどこでも見積作業をすることができる

②データを一括管理できる

③同時使用本数でのご契約なので、イニシャルコストを抑えられる

といった利点があげられます。

また、VPNを使用することで、本・支店間のデータの一元化にも対応することができます。



本・支店間でデータを一括管理

見積階層は、最大で10階層まで対応。工事項目数は無制限に作成可能。

建設業の見積書には欠かすことのできない階層構造の見積書を作成します。

このようにして作成された見積書の印刷イメージも、様々な形に設定可能です。

例1）総括書・総括明細書・内訳書を使って印刷。

例2）総括書に細かな階層も表現して、総括明細書を使用しない。

例3）工事項目番号を使わずに、インデントによって階層構造を表現する。

上記以外にも様々な設定を可能にしてありますので、ご要望に沿った見積書を作成することができます。

階層ごとの工事項目番号は、あらかじめ設定しておくことで、自動的に付番されます。

電気ＢＯＸ・設備ＢＯＸとの見積合併も可能です。

物件
- 共通仮設工事
  - 東棟
    - 仮設工事
    - 土工事
    - ・
    - ・
  - 南棟
    - 仮設工事
    - 土工事
    - ・
    - ・
- 電気設備工事
  - 東棟
    - 電力引込工事
  - 南棟

見積書全体の材料や労務費・経費を分類別に集計し、金額の検討・シミュレーションが可能です。

見積（提出）金額を直接入力することはもちろん、「数量検討率」「単価検討率」を変更することで、見積（提出）金額を算出します。

原価を把握することによって「攻めの営業」を可能にします。

原価率のシミュレーションを行うことによって、原価を細かく把握できます。

利益率や利益金額から見積金額を逆算可能。

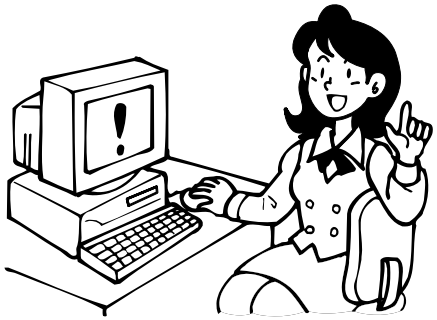
材料ごと・分類ごとに利益率や利益金額を変化させることもできます。

見積単価・見積数量を掛け率で検討・シミュレーションします。

「数量検討率（②）」は、見積書作成時に入力した原数量（拾い数量）に対する率です。B材など数量を増やすことで利幅を見込めるものに有効です。

「単価検討率（③）」は、「標準金額（④）」に対する率です。A材は、見積書作成時に定価を入力しておくことで、定価に対する率計算が可能です。また、B材は原価を入力しておくことで原価に対する率計算ができます。

このシミュレーションは何度でも行うことができるので、それぞれの検討率を変化させることで「利益金額」「利益率」などを把握して検討することができます。



見積書の総合計金額から逆算します。

「見積金額（①）」の最下部（合計欄）がこの見積書の頭金額です。

ここに直接金額を入力することで、見積書全体を逆算して、入力した金額が合計になるような見積書を作成します。

この逆算時に変更を許可する分類と変更を許可しない分類を「チェックボックス（②）」で選択することができます。

この機能を使うことで「材料以外を調整してこの金額にしたい」といったご要望を実現します。

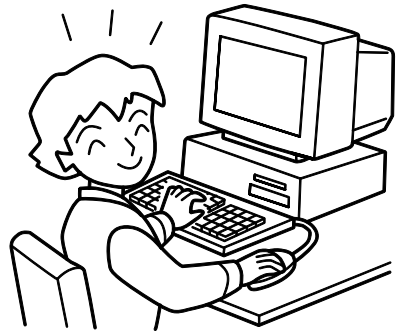
このシミュレーションは何度でも行うことができるので、頭金額を変化させることで「利益金額」「利益率」などを把握して検討することができます。

合計金額を指定されて受注しなければならない場合は、原価を逆算します。

日々の業務の中には、合計金額を指定されてしまう場合もあります。このような状況では原価を下げて利益を取るしか方法はありません。

「チェックボックス（②）」すべてにチェックをつけて「見積合計金額（①）」に指定金額を入力することで、「指定された金額で工事を行うにはどの分類に赤字があるのか」をつかむことができます。その分類の「対標準金額原価率（③）」を下げることで原価を逆シミュレーションして、「いくらで仕入れれば利益が出るか」を把握することができます。

このシミュレーションは何度でも行うことができるので、頭金額を変化させることで「利益金額」「利益率」などを把握して検討することができます。



建設物価や積算資料の材料単価データを取り込む機能

材料マスタの単価コードに各社から出されている材料データのコードを対応させることにより、材料単価を自動的に取り込むことが可能です。

読み込めるファイルの種類

- ◎ 経済調査会 積算資料<名称漢字・固定長>
- ◎ 経済調査会 積算資料<名称なし・固定長>
- ◎ 経済調査会 積算資料<名称漢字・CSV>
- ◎ 経済調査会 積算資料<名称なし・CSV >
- ◎ 建設物価調査会<名称漢字・固定長>
- ◎ 建設物価調査会<名称なし・固定長>
- ◎ 建設物価調査会<名称漢字・CSV >
- ◎ 建設物価調査会<名称なし・CSV >

データを取り込む時に、単価に掛け率を掛けたり、管類などのように本変換したい場合に定尺で割ることも可能です。

単価データをエクセルで全て読み込み、建設BOXの材料フィールドへ加工することにより、全データを取り込むことも可能です。

材料マスタを参照して、一括で材料を入力する

材料マスタを開くことにより、一括入力することが可能です。
選択方法は、Windows の基本操作に準じています。

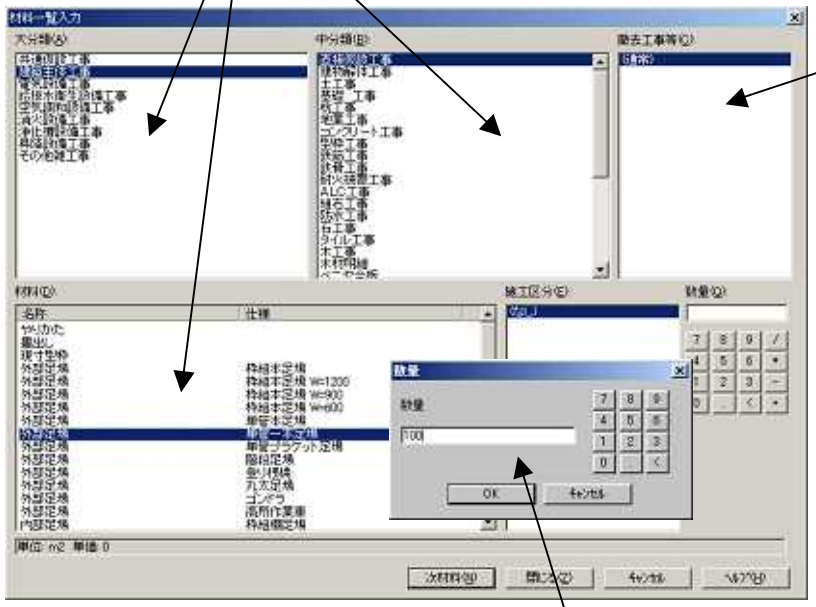
◎　[Ctrl] を押しながらクリック
　　→ → →　　これとこれとこれ

◎　[Shift] を押しながらクリック
　　→ → →　　ここからここまで

◎　ドラッグ
　　→ → →　　ここからここまで

材料マスタを1画面に表示させ、撤去工事等の指定や施工区分も一緒に設定し、入力する機能

大分類をクリックするとその中分類が自動的に表示され、材料明細まで自動連動で呼び出すことが可能ですの入力効果は200%です。

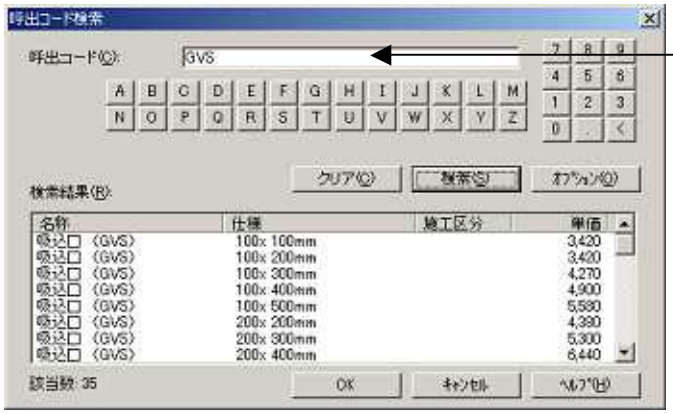


支給品や撤去工事等も工事区分も設定することが可能です。
また、工事区分を指定した時に、歩掛の率変更も自動計算することができます

材料を入力しながら、数量も入力することが可能です。
入力方法は、キーボードと画面入力の2通りがあります。

多彩な入力方法　－　コード番号による入力　＆　ダイレクト入力

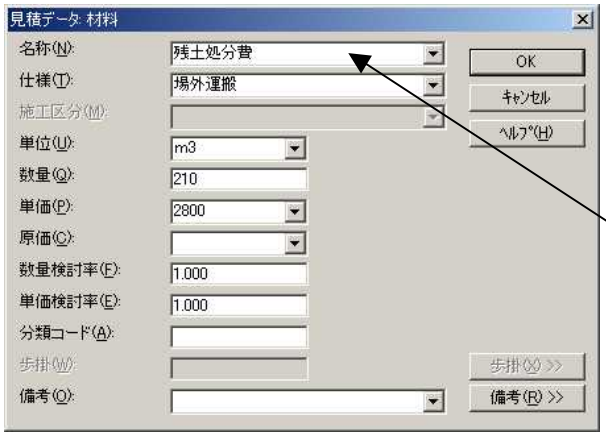
ユーザーが材料ごとに自由なコードを付け、キーボード入力だけで膨大な材料マスタから材料を呼び出す機能



呼び出しコード欄にキーボードか画面ボタンでコードを入力するだけで該当する材料を検索表示することが可能です。

呼び出しコードは、材料の数量と一緒に連続入力することが可能ですので手製の拾出し表に呼び出しコードを記載しておくことにより、キーボードからの連続入力が可能です。

材料マスタに無く、めったに使用しない材料は、ワープロ感覚でダイレクト入力

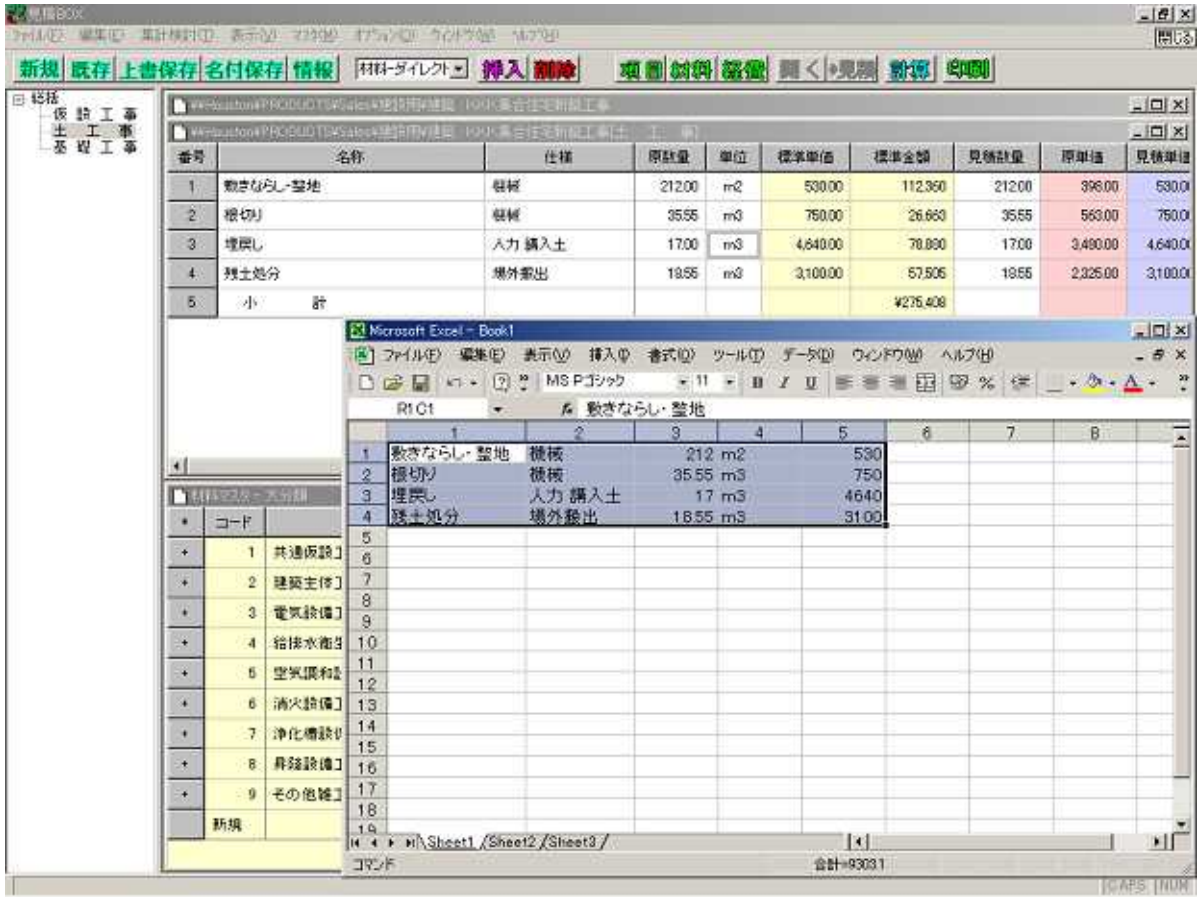


材料マスタに関係なく、ワープロ感覚で材料を連続入力することが可能ですので修理見積や簡単な見積作成には威力を発揮します。
ダイレクト入力した材料を、材料マスタへ登録することも可能です。

一度入力した文字は、自動的にヒストリへと登録されますので、下向き▽をクリックするだけで再利用することが可能です。

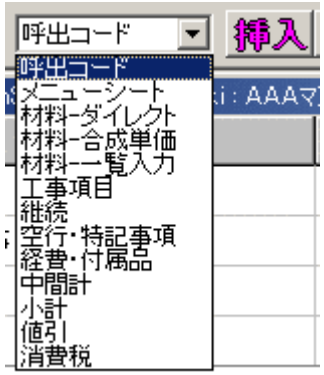
エクセルのデータを明細書へ貼り付ける機能

資材メーカーや外注業者等からエクセルやテキスト・CSVファイル等で受け取ったデータから明細書へデータを貼り付けることが可能です。



建設BOXの持つ自由自在な編集機能をピックアップしてご紹介いたします。

◇　自由な場所へ挿入できるアイテム



◎　**空行・特記事項**
　コメント文などを入力することが可能です。

◎　**中間計**
　ブロックブロックの中間計を入力することが可能です。

◎　**小計**
　材料小計などを入力することが可能です。（ 自動発生させることも可能 ）

◎　**消費税**
　消費税を入力することが可能です。（ 税率の設定も可能 ）

◎　**値引**
　値引きを入力することが可能です。

※　全ての挿入できるアイテムの文字は、変更可能です。

◇　思った通りの見積書を作成するための編集機能

見積階層間のデータ移動　・　総括表の手直し機能（ マンションなどの戸計算可能 ）　・　複数見積の合成機能
パターン見積の簡単作成機能　・　提出金額の頭合わせ機能　・　提出金額の利益率からの逆算機能　・　工事項目の頭合せ機能
単価の自動調整機能　・　数量の自動調整機能　・　経費及材料の端数調整機能　・　端数調整桁数設定機能
端数調整方法設定機能　・　見積単価桁数調整機能　・　工事項目の頭記号設定機能　・　見積単価小数桁数設定
見積単価小数桁数設定　・　歩掛の桁数設定　・　複数材料の一括呼び出し機能　・　不要材料一括削除機能　・　数量の一括削除機能
呼び出しコードによる材料呼び出し機能　・　同上文字（ 〃 ）の自由設定機能　・　マスタの複数化機能　・　テキスト出力機能
原価表などの出力アイテム自由設定機能

ユーザー特有な多くの設定の中から快適な見積作成に欠かせないものをピックアップしてご紹介いたします。

◇ システム基本設定

「システム基本設定」では、実際に使用する歩掛や単価等の数を設定する事が出来ます。

この機能を設定する事により、不要な機能を隠す事が可能です。

異なる工種歩掛	10種類
備考	3種類
材料マスタ単価	5種類
提出先毎に設定可能な提出検討率	5種類

□ 施工区分を使用する
通常、施工区分(隠蔽・露出等)を設定して見積書を作成しますが、簡易的な見積書のみを作成する場合に表示させなくする事が出来ます。

□ 標準単価・標準金額を使用しない
見積書の作成方法として、大きく分けて「全て原価で見積書を作成し、利益率や利益金額を見て提出金額を算出する。」場合と「A材は、定価を入力し、B材は原価を入力し利益率や利益金額を見て提出金額を算出する。」とがあります。
この機能は、そのような作成方法を設定します。

□ 自動計算をする
見積書の縦計や付属品・工費等の計算を自動的に行うことが出来ます。

◇ 小数桁数設定

「小数桁数設定」では，見積単価・材料マスタ単価や見積数量や歩掛等の小数桁数を個別に設定しておくことができます。

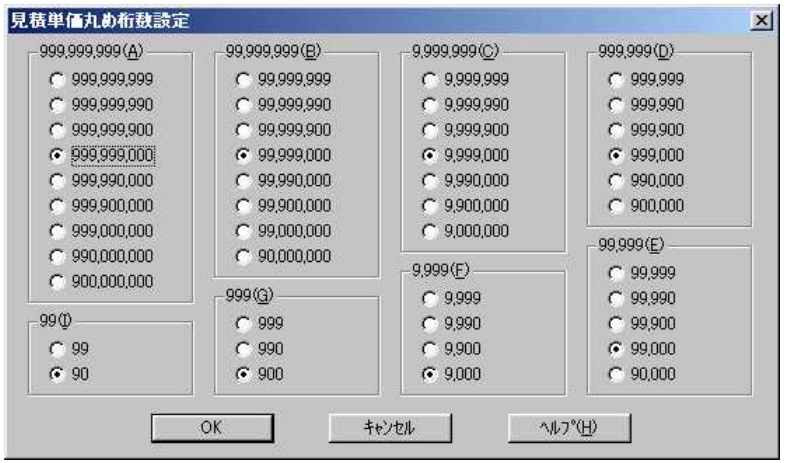
この機能を設定する事により、見積書毎に見積数量の小数桁数を変えたりする事が可能です。
また、歩掛を工量扱いにする事も可能です。

◇ 丸め方法設定

「丸め方法設定」では，提出見積書の数量や単価・金額を端数調整する際の丸め方法を個別に設定することができます。

この機能を設定する事により、民間の端数調整は「切り上げ」にし役所は、「切り捨て」にする等の設定が可能です。

◇ 見積単価丸め桁数設定



「見積単価丸め桁数設定」では、見積単価や見積金額を丸める際、桁数ごとに下何桁を丸めるかを設定することが出来ます。
多くのシステムでは、丸め桁数のみの設定しかできないことが多く、総桁数毎に丸め桁数を設定できる画期的なものです。

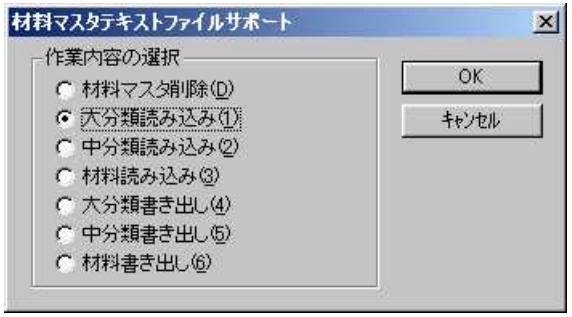
この機能を設定する事により、見積金額の大中小にとらわれず、正確な見積書を作成する事が可能です。

◇ 工事項目番号設定

「工事項目番号設定」は，見積書の階層の深さごとに工事項目の頭の番号を設定することが出来ます。
左の設定の場合，見積書の階層が２階層のときは工事項目の先頭に「カッコつきの数字」をつける。
見積書の階層が３階層のときには１階層目の工事項目にアルファベット，２階層目にカッコつきの数字といった形です。
また，カッコやピリオドなどを自由につけたりはずしたりすることができます。

この機能を設定する事により、得意先から書式等に指定がある見積書にも対応することが可能です。

各種マスタデータをエクセルやテキスト・CSVファイル等に入出力します。



材料メーカーや現在使用中の見積ソフト等からエクセルやテキスト・CSVファイルなどへ変換したデータがあればフィールドの調整だけで取り込むことができます。

また、設備BOX・見積TOOLからテキストファイル出力することも可能です。

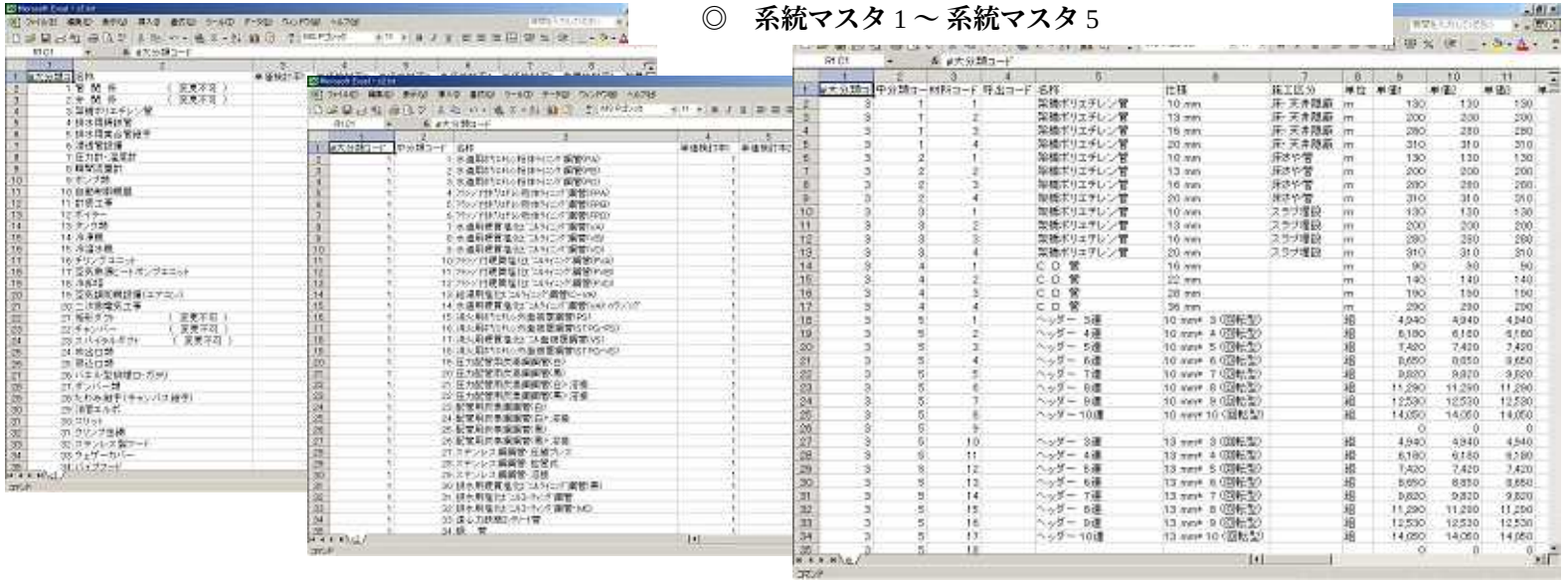
【　テキストファイル入出力できるマスタ　】

◎　材料マスタ（ 大分類・中分類・明細 ）

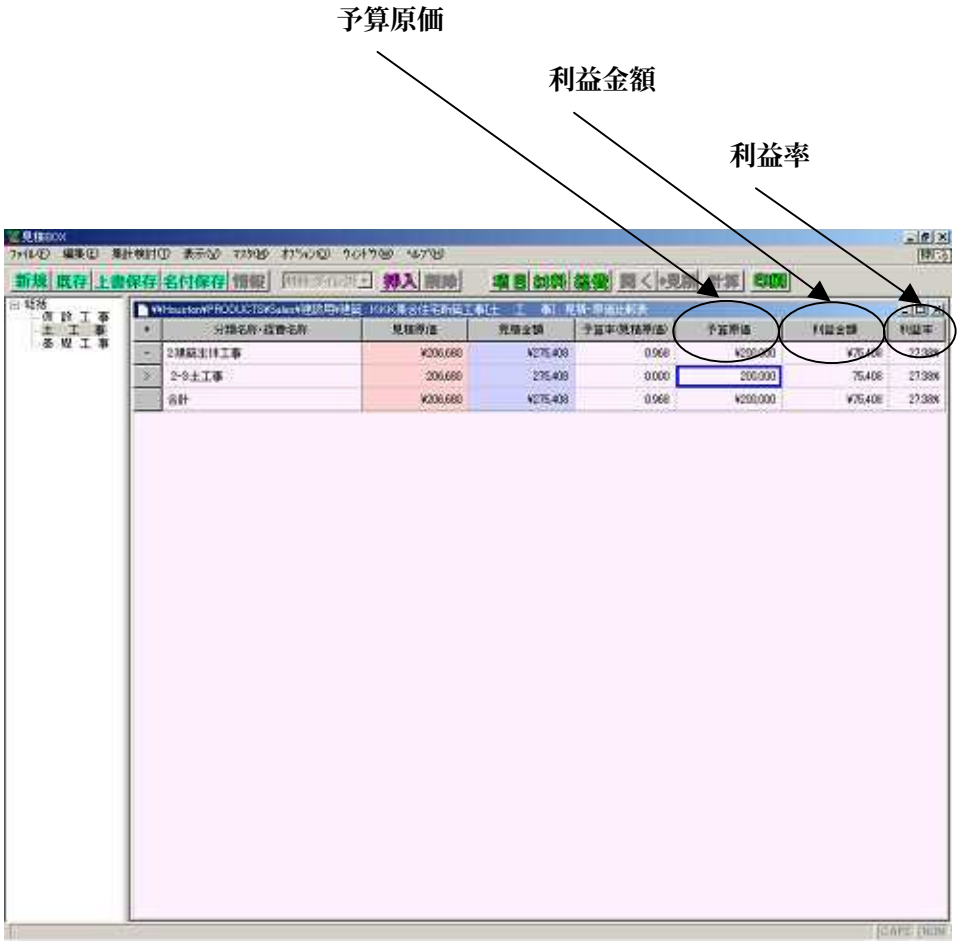
◎　経費・付属品マスタ

◎　工事項目マスタ

◎　系統マスタ 1 ～ 系統マスタ 5



見積原価だけでなく実行原価もシミュレーション可能。



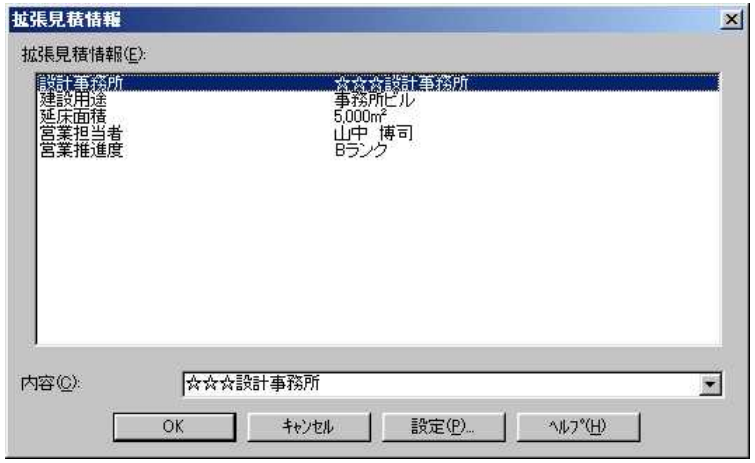
見積原価はあくまでも「見積書作成時に想定した原価」です。実際に工事を受注して、施工する段階では、より綿密な実行原価を把握しなければなりません。

実行原価を把握するためには、仕入業者との交渉や下請け業者の選定など様々な業務が必要となります。

そのような業務をスムースに運ぶための資料として、また、予算原価を入力することにより利益金額や率が変化するので、シミュレーション機能としても使用できます。

「　見積情報拡張　」で見積書一括管理

見積書を見積書以上のものとして活用するために、ユーザー独自の情報を自由に登録することが可能です。



見積書に付随する情報から帳票を作成して現場管理・顧客管理に役立てることが可能です。

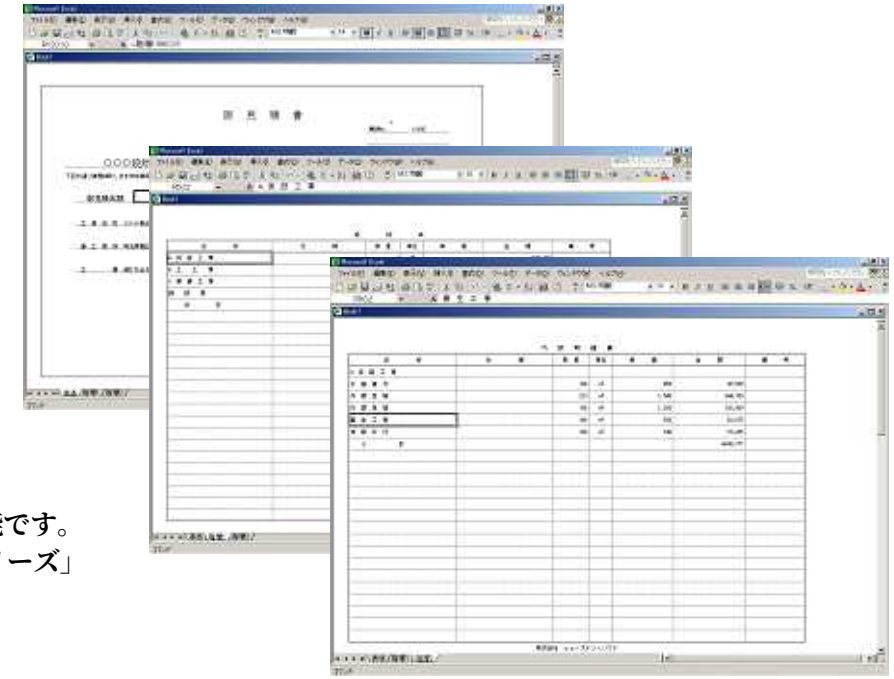
テキストファイル出力可能ですので、エクセルなどで営業推進チェック表や得意先ごとの集計表なども作成することが可能です。

見積書を管理・検索しやすいように，見積書の情報を自由に100項目設定することが可能です。

建設BOXの見積データをエクセルへ自動変換！

変換するエクセル書式は、自由に作成する事ができ、登録数にも制限はありません。

変換された見積書は、鑑・総括表・総括明細書・内訳明細書ごとにシートで分かれます。



作成した見積書を、エクセルのデータへ自動的に変換することが可能です。
変換後は、通常のエクセルデータですので、提出先に「見積BOXシリーズ」が無くてもエクセルがあればデータを読むことができます。

変換された見積書の数量や単価を変更しても、金額や縦計・総額も自動的に計算されます。（ 付属品・経費等は計算されません。 ）

エクセルへ変換する書式には、一部制限事項及び設定事項があります。
対応するエクセルは、Excel-2002 以降となります。

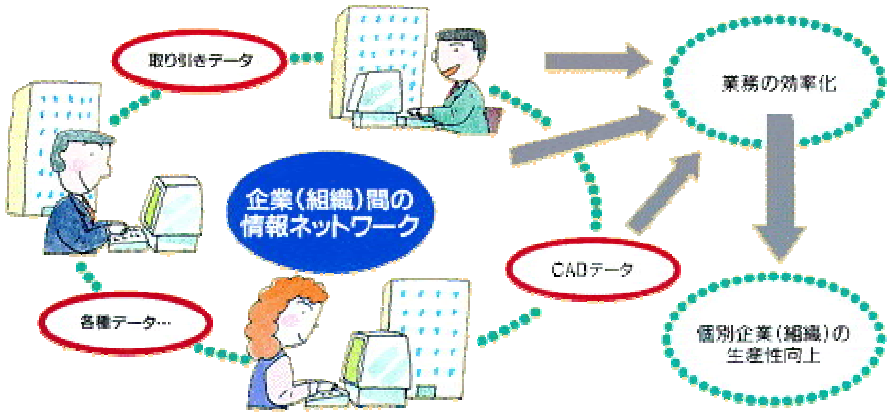
「CI-NET LiteS」に対応した入出力機能

CI-NET や CI-NET LiteS に準拠したデータを出力できますので、見積情報の電子化や今後取り入れられると考えられている電子入札に対応することができます。

また、データの出力だけではなく入力も可能ですので、今後、CI-NET が普及するにつれて、これまで煩わしかったデータの再入力をしなくてすむようになります。

建設産業情報化ネットワーク(CI-NET)とは

標準化された方法でコンピュータネットワークを利用し建設生産に関わる様々な企業間の情報交換を実現し、建設産業全体の生産性向上を図ろうとするものです。

CI-NETの検討は建設省、学識経験者、関連団体、推進センター会員企業の協力を得て、建設産業におけるEDI標準の他、建設資機材コード等の電子データ交換のための標準の策定、利用推進、広報・普及活動を行っています。

関連する標準化作業が建設産業情報化推進センターを事務局とする「建設CADデータ交換コンソーシアム」において検討されています。